

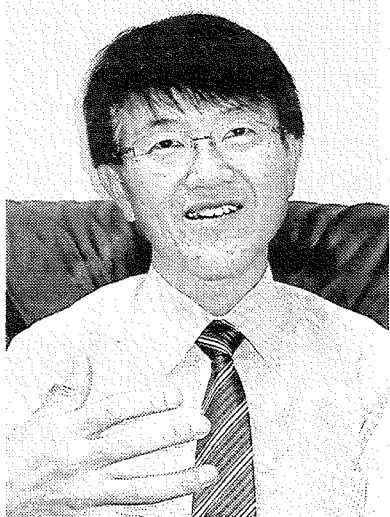
医人伝

「治す医療」の世界では、医師の役割はチームリーダーでも「支える医療」の中では、役割は「コーディネーターかな」と言う。名古屋大に昨年度から設けられた「障害児(者)医療学寄付講座」の教授を務める。講座では、古巣の愛知県心身障害者コロニー(同県春日井市)の協力を得て、医学部五年生の病院実習を始めた。子どもを通院させる母親の話を聞く時間もある。「こうした子どもたちに出会ったとき、分らない」と拒否せず、支えられる医師になってほしい」との思いからだ。

める。気管切開、胃ろう、人工呼吸など、医療的なケアで命を保つ重度の心身障害児が増えている。だが、その在宅生活を手助けする医師はわずか。支える医療充実のため、小児科医や医学生への関心を高めること、保健・福祉・教育をつなぐ

名古屋大(名古屋市昭和区)

寄付講座教授 **三浦清邦**さん(53)



小児在宅医療の充実に情熱を燃やす三浦清邦さん

在宅の障害児を支える

を、懸命に助けようとする先輩医師たちの姿に「ここまでやる意味はあるんだろっか」と迷ったこともあった。懸念に助けようとする先輩医師たちの姿に「ここまでやる意味はあるんだろっか」と迷ったこともあった。さんたちと接する中、命の輝きに感動し、「最後まで諦めちゃいけないんだ」と考えを固めた。

「支える医療」への関心を高め、愛知県豊田市こども発達センターに移ってから訪問看護師、特別支援学校の教員、福祉施設職員(編集委員・安藤明夫)

らとの関係を深め、医療的ケア実践セミナーの開催に尽力するなど、地域の力の底上げ、連携に努めてきた。母校の名大に来てからは、「あいち小児在宅医療研究会」を立ち上げ、昨年十一月のシンポジウム「NICUからの在宅支援」には約四百四十人が参加した。NICU発達障害研究所と共同で、同県内の在宅の重症児らの実態調査を進めている。さまざまな医療機関に協力を求める活動に、名大医学部時代のラグビー部の仲間、先輩たちの応援が心強いという。

方 ケーブル テレビ クレジット